

令和7年度尾張旭市一般会計補正予算（第3号）

討論要旨 榊原利宏議員

賛成で取り上げる項目は、款4衛生費、目1保健衛生総務費、節18負担金、補助金及び交付金の健康課の事業番号12-0101公立陶生病院組合負担金、2億1,400万円を追加し、総額で6億4,200万円を負担するということであります。

現在、公立病院をはじめとする多くの医療機関は、診療報酬が十分引き上げられていないことなどから経営が逼迫しております。陶生病院も例外ではなく、前年度予算では22億1,271万円もあった資金期末残高が、今年度は僅か266万5,752円という大変厳しい予算でした。そして、実際に構成市の支援が必要となり、今回の補正予算が必要となったものであり、構成市としては、市民に安定して医療を提供するためにやむを得ないものと解しております。

こうした中、本年3月に発出されました、全国自治体病院協議会も参加した日本医師会・6病院団体合同声明では、このままではある日突然、医療機関が地域からなくなってしまうとして、緊急の補助金や、高齢化の伸びの範囲内に抑制するという社会保障予算の目安対応の廃止、診療報酬等について、賃金・物価上昇に応じて適切に対応する新たな仕組みの導入を求めています。

本市もこの声明の立場に立ち、政府に、医療分野の賃上げや物価高騰に対応した診療報酬の改定を保険料上昇にリンクすることなく実施することを求めるべきであります。

また、構成市からの陶生病院への繰り出しについては、今年度、基準額約30億円に対し、20億円しか繰り出ししておりません。この点の見直しが必要ではないのかと申し上げて、賛成討論いたします。